



# 県内 景気動向

平成21年 8月 3日

日本銀行水戸事務所

## 概 況

県内景気は、輸出、生産、公共投資に変化がみられており、下げ止まっている。

すなわち、設備投資、住宅投資とも大幅に減少している。個人消費は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、雇用・所得環境が厳しさを増すもとで弱めの動きとなっている。

一方、輸出は一部に回復の動きがみられるほか、生産も下げ止まっている。この間、公共投資は大幅に増加している。

消費者物価は、前年の石油製品価格高騰の反動などから、前年比マイナス幅が拡大している。

金融面をみると、預金は小幅の増加となっている一方、貸出は高めの伸びが続いている。

企業の資金繰りや金融機関の貸出態度については、中小企業を中心になお厳しいとする先が多い。

## 実体経済

### ◎個人消費

個人消費は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、雇用・所得環境が厳しさを増すもとで全体としては弱めの動きとなっている。

6月の大型小売店売上高は、衣料品や高額商品(身の回り品等)が依然として不振であったため、引き続き前年を大きく下回った。7月入り後も基調面で特段の変化は窺われていない。この間、中元商戦をみると、低価格志向の強まりなどから売上げは前年を下回った模様である。

6月の乗用車新車登録・販売台数は、依然として前年を下回る状態にあるが、自動車減税の効果などから前年比マイナス幅が縮小した。

一方、このところの家電販売額は、薄型テレビ(地上デジタル放送対応)や冷蔵庫などのエコポイント制度導入(5月15日開始)もあって、順調に推移している。

### ◎公共・住宅投資

6月の公共工事請負金額は、国の発注集中や市町村の大型工事発注などから前年を大きく上回った。

6月の新設住宅着工戸数は、分譲住宅を中心に前年を大幅に下回った。

### ◎生産

生産は輸送用機械(自動車関連)などを中心に下げ止まっている。

5月の鉱工業生産指数は2008年9月以来8か月振りに前月を上回った。また、在庫も依然として高水

準ながら、3か月連続で前月を下回った。

### ◎雇用・所得環境

雇用・所得環境は労働需給が大幅に緩和し、雇用者所得も減少するなど、厳しさを増している。

企業の雇用過剰感は根強く、6月の有効求人倍率は前月比低下し、既往最低を更新した。

一人当たり賃金も弱めに推移しているほか、常用労働者数も減少しており、雇用者所得は厳しさを増している。

## 物 価

5月の消費者物価(生鮮食品を除く総合)は、前年における石油製品価格高騰の反動などから、前年比マイナス幅が拡大した。

## 金 融

### ◎預金・貸出

県内金融機関の6月末預金残高は、13兆9,336億円と、都市銀行・信託銀行、地方銀行を主体に前年比1.9%の増加となった。また、6月末貸出残高は、7兆4,999億円と、地方銀行、地方銀行Ⅱを主体に前年比2.8%の増加となった。

### ◎貸出約定平均金利

県内金融機関の6月末貸出約定平均金利(ストックベース)は、2.438%(うち短期2.521%、長期2.376%)と、前月比低下した。

### ◎企業金融

企業の資金繰りや金融機関の貸出態度については、中小企業を中心になお厳しいとする先が多い。

## 企業倒産

6月の企業倒産(負債総額10百万円以上)は、前月に比べ件数が増加したうえ、負債金額も大型倒産の発生から大幅に増加した。

茨城県主要経済指標 (前年比、%)

	20年度	21/4	21/5	21/6
大型小売店売上高	▲ 2.4	▲ 7.2	▲ 8.5	▲ 10.0
乗用車新車登録台数	▲ 8.9	▲ 26.5	▲ 13.9	▲ 7.7
〔うち軽〕	0.9	▲ 19.5	▲ 14.7	▲ 12.0
公共工事請負金額	0.4	2.4	▲ 20.3	16.5
新設住宅着工戸数	▲ 7.2	▲ 47.0	▲ 34.2	▲ 11.5
〔持家〕	0.7	▲ 34.2	8.1	▲ 34.2
産業用電力消費量 〔大口電力〕	▲ 7.5	▲ 22.0	▲ 20.2	▲ 19.8
鉱工業指数〔生産〕	▲ 13.2	▲ 29.6	▲ 32.2	-
鉱工業指数〔出荷〕	▲ 13.4	▲ 27.0	▲ 28.9	-
鉱工業指数〔在庫〕	7.0	7.8	3.7	-
有効求人倍率(倍)	0.76	0.45	0.42	0.40
倒産件数(件)	226	29	13	26

※鉱工業指数、有効求人倍率は季節調整済  
倒産件数の対象は負債総額1,000万円以上